

研究会記録

発言者	発言内容
授業者 T1	<p>単元設定は子どもたちの「やってみたい」という希望も踏まえてのものだった。普段は1～6年生の子どもたち全員で活動しているが、本時は5・6年生だけを取り出しての実践だった。本時では子どもたちから出してほしかった文言が全部出てきてよかった。そのままちらしにしようと思っていた子もいるので、飾り文字等を書き、時間がかかってしまった子どももいた。どんなちらしにしたいかを考えられたので、子どもたちなりにイメージできたと思う。子どもの中には授業後に「今日とても楽しかった」という子もいて、その言葉が励みになった。</p>
授業者 T2	<p>全員発表ができてそれぞれの個性も出てよかった。T1・2の役割も意識して取り組んでみた。書くことに対して苦手意識のある子もいて、2人の子どもの鉛筆が止まった場面があった。支援の仕方として、ヒントカードを出す予定だったが、タイミングで悩んだ。</p>
参観者	<p>子どもたち一人一人が問いに向かって追求する姿が見られた。学年やペアの組み合わせもいろいろだったが、子どもたちが本時の活動内容をよく分かっていて、見通しをもって自分の問いに向かって追求できていたと思う。自立活動の中で国語的な要素の入った内容をするという部分で、単元構成や授業の流れを作るのは難しかったと思うが、「書く」活動もたくさん入っていて私たちにとっても学びの多いものになった。</p>
参観者	<p>キャッチコピーを考えるだけでもよかったのではないかと思った。「体にいい」「色もいい」という2つの表現で悩んだ子もいたが、教師が視点を絞って考えるようにしていたことで子どもたちも取り組むことが明確になっていてよかった。</p>
参観者	<p>子どもたちが何を言ってもいいという肯定的な雰囲気があり、子どもたちは自分の考えや思いをとて言言しやすかったと思う。後ろにスクリーンがあり、先生が映像として提示し、それがヒントとなって、子どもたちの思いにつながっていた。</p>
参観者	<p>子どもたちは自分たちが育てた野菜にとて自信をもっているという感じを受けた。子どもたちの中で、本時の学習の流れがわかっていて、活動の見通しがもててよかった。一人一人がしっかり自分の意見を発言できていた。キャッチコピーや言葉をかえるのが難しかった子もいるが、先生の手立てやまわりの子どもたちの活動によって子ども一人一人が自信をもって意見を言えていてよかった。</p>
参観者	<p>5・6年生のこれまでの学習の積み重ねが本時の学習によく表れていてよかった。本時のペアの組み合わせについて教えてほしい。</p>
授業者	<p>人間関係を考えて、組分けは、普段の学習形態とあまり変わらないように配慮した。普段の活動では色別班の分け方だが、男女、学年が平均的になるようにしている。普段は1班4人グループで、できるだけ高学年と低学年ペアになるように構成している。人間関係や子どもたちの個性によって構成している部分大きい。</p>
助言者	<p>昨年度の12月にも授業を見せていただいたが、子どもたちからのプラスの言葉がさらにたくさん増えていて、何を言ってもまわりに受け入れてもらえる温かな雰囲気があってとてもよかった。</p> <p>光るところがたくさんある授業だった。自らの問いを追求するという観点からみても、子どもたちは自分の問いの解決に向けて取り組むことができていた。ま</p>

た、子どもたちが言葉を大切にしていた授業だった。キャッチコピーとして入れた言葉を取捨選択できていて、言葉に着目する授業がなされていた。相手意識や目的意識だけではなく、場所なども関係している。本時の学習の中で、子どもたちは目的意識を強くもっていて、誰に向けてのキャッチコピーなのか、何のために学習活動をしているかよく理解できた上で学習活動が流れていた。

書きながら聞く、聞きながら書くという学習活動もできていた。止まっていた子に先生がヒントカードを出していたが、ヒントカードを出すタイミングは難しいと思う。ヒントカードを子どもが取りに行くという形式を計画してもよいと思った。

本時の最後に発表したが、みんなで共有することは大切だと思う。本時の「書く」活動だが、子どもたちから書くべきことがどんどん出てきた。ICTを使ってもよいし、子どもから色をつけるアイデアも出てきたので、今後計画に組み込んでみるとよい。

先生がどんならしを作ることをイメージしていたか。先生がイメージするらしのようなものを子どもたちに提示して、イメージさせてもよかった。

「おいしい」や「みずみずしい」という言葉に子どもたちは引っ張られていたように思うが、それは先生のヒントを意識したからだと思う。もっと例を多く準備してもよかった。

「5W1H」は必ず必要である。相手意識をもっとはっきりさせてもよかった。交流学級の先生や校長先生など、渡す相手をあえて絞っておくとはっきりしてくると思う。子どもたちは黙って書いていたが、自然な形で対話させてもよかったと思う。授業の中で自然な対話があってもよい。

子どもたちの発表だが、より工夫するところとして、何のための共有なのかをはっきりさせておくことが大切だ。「直したい」「変えたい」という子がいたら、そこで直してもよい。今日の共有は子どもが作成したものをよりよくさせるためのものであり、たいへんよかった。これまでに、実際に食べてみておいしさを知っており、育ててきたという体験があるからこそ書けるキャッチコピーを考えることができた。

子どもたちが真剣に考えている様子が見られた。高学年としての心構えもできているし、今回のキャッチコピーづくりが子どもたちの学びの原動力になったと思う。



--	--